



きらくなたより

発行者 鈴木 忠好
発行月 R元年 8月.
No.27

猛暑は過ぎたか？

今頃の時期、夕方になるとカナカナカナという涼しげなヒグラシの音が聞こえてくるものですが、あまりの暑さか、それもあまり聞こえませんが。ん？蝉？かと思ったら耳鳴りの音だったなんて笑点みたいなおとも。

「避暑族」と呼ばれ中国の人々が、涼を求めて地下鉄の構内、博物館等の公共施設に家族中で寝ころんでる様子が放映されていきました。家具売りの場のベッドで親子川の字になって昼寝、マッサージ椅子で大いびきと信じられないような光景。それを咎める店員さんもないとは誠に大陸的で大らかなものです。このクソ暑いのに、拳を振り上げ「謝罪しろー！」と怒鳴っている人達よりまだ愛すべき人達でしようかね。記録的な暑さもようやく落ち着いてきたようです。秋がすぐそこまで来ている。



デッカイお芋がとれたよ！

8月4日、あの暑さの中、子供たちによるジャガ芋掘りが実施されました。



芋の成長期に雨が多く、どこでも2割くらいダメになったという話を聞く中、わが会の芋は会員の努力により見事に育ち大豊作。

夏休みでも何かと多忙な子供たちの中、土に親しむ体験をさせたいと、5組の親子が参加してくれました。

汗だくになり大いに土に親しみ、引きずるほどにたくさんのお芋を土産に、大満足な様子でした。

秋にはさつま芋掘りが待っています。乞うご期待！

子供たちとは顔なじみに

孫たちも、2学期が始まりました。高齢者は1年中夏休み。昔は、休みにになると「夏休みの友」というあまり仲良くなりたかない友で苦労したものです。以前に町内でも、声掛け事業が発生し話題になりました。

「子供たちに話しかけて、怪しい人に間違えられたら大変だね」と高齢者。怪しげな人相は今更変えることもできないし、悩ましいところでは。近所の子供たちとは、日ごろから顔なじみになるように努めていくことも大事なことがあると思います。それがやがて自分の為にもなっていくのでは？

徘徊していても、顔馴染みの子供たちが、家まで連れ帰ってくれるかもしれません。

「情けは人の為ならず」昔の人は良く言ったものです。

